

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議
(だい 15 期 だい 2 年 だい 1 回 だい 2 日)
ぎじろく
議事録

- 1 日時 2025 (令和7) 年 5 月 18 日 (日) 午後 2 時 00 分～5 時 00 分
- 2 場所 川崎市国際交流センター
- 3 出席者
 - (1) 代表者 24 人
 - (2) アディダヤ ヨザ、イトウ ユリカ キヤレン、ウイ スー ケット、鎌田
ファチマ、ギーゼッケ フロリアン、金 寿瑛、車 望舒、鄭 載勳、
スリニヴァサン スチエタ、スン チン グアン、セネ アイサトウ チンボ、張
遥、ヒラノ ジョイミ、ヒリストバ ガブリエラ、ブー ホン アン、
プストフスキー アナスタシア、古谷 史子、ボカレル ナラヤン、ボソ ミゲル
アンヘル、ボラニス キ ビョートル、楊 子宜、ラハマン ジアウル、李 詞、ルイス
ジェームス
 - (3) 事務局
小出 課長、三田村 課長補佐、堤 職員、緒方 職員、河田 専門調査員
- 4 傍聴者 8 人
- 5 会議次第 (公開)
 - (1) 開会
 - (2) 事務局説明
 - (3) 議事
 - (4) 事務連絡
 - (5) 閉会

【全体会】

セネ委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議、2025 年度第 1 回第 2
日を開催する。今日は、ハン委員と朴委員が欠席である。まず、日程と配布資料につ
いて事務局から説明をお願いする。」

(事務局三田村課長補佐より資料に基づき説明)

セネ委員長「前回のまとめについて事務局から説明をお願いする。」

(事務局河田専門調査員が資料1に基づき説明)

セネ委員長「何か質問があるか。(なし)では、議事に入る。事務局から説明をお願いする。」

(事務局緒方職員が資料2に基づき説明)

セネ委員長「何か質問があるか。(なし)では交流会をやるに賛成の方は挙手いただきたい。

(挙手23人)では交流会をやることが決定した。それでは、部会審議に移る。全体会の再開は、16時40分とする。」

【多文化社会部会】

アディダヤ部会長「それでは部会を始める。事務局から説明をお願いする。」

(事務局緒方職員より資料3に基づき説明)

アディダヤ部会長「では意見のある方は挙手いただきたい。」

セネ委員「コスト面や労力をどれくらいかけられるかという点で、日本語教室を増やすという提案は実現可能性が低いと考える。場所やボランティアを増やすということはすぐにできることではない。」

事務局緒方職員「ご指摘はもっともである。また、14期の提言で同内容が提案されていて、市として取組中である。」

セネ委員「では、今期は提言しないほうがよいか。」

事務局緒方職員「みなさん次第であるが、同内容で提言をするなら、再提言とするに値する理由付けが必要になる。」

スン委員「情報発信について、ウェルカムセットの標準化と二次元コードリスト化はコスト面の課題も少なく、実現可能性が高いと思う。現行のウェルカムセットは紙で配布している。それはやめないで、表紙に二次元コードリストをつけるようなイメージである。」

セネ委員「入国間もないときには、スマホをまだ持っていないで、紙でなければ見られない状況の場合もあり得るので、紙配布はやめない方がよい。」

フロリアン委員「ただ、各市民のニーズは異なるし、区によってリソースも異なるだろうから、無理やりすべてを標準化する必要はないように思う。」

鄭委員「ウェルカムセットは転入時に知っておくべき内容の資料を含めるもの。生活していくて必要になる情報が自分で検索したり、調べたりしたらよいと思う。情報が多すぎるのも問題なので、簡単なライフサイクルに合わせてどのような手続きがあるかフローにしたらわかりやすいと思う。引越しのときに必要な手続きのフローチャートのようなもの。」

古谷委員「情報が多すぎると使えないので、行政が市民に対して知ってほしいことを発信
するということに絞ってよいのではないか。」

ブー委員「二次元コードリストにまとめたら、SNSで発信したらよいと思う。そうすると
定期的に更新もできる。」

ウイ委員「何度も情報が来ても、実際に読むかというのと読まないことが多いのではないか。
入口の情報だけで十分だと思う。」

ラハマン委員「新たな提案である。自治会に外国人グループを作って、ボランティアを呼ん
で日本語スクールを開催するという提案をしたい。」

事務局緒方職員「自治会に関連する内容は、安心生活部会で取り組んでいる。」

ウイ委員「日本語教室について、横浜市には多いのに川崎市には少ないという指摘があっ
たが、これは人口比によるもので川崎市の日本語教室が突出して少ないということ
ではないだろう。」

フロリアン委員「同感である。横浜市と川崎市の人口が2倍の差であるなら、日本語教室
の数もその割合で考えるべきだ。」

鄭委員「外国人市民意識実態調査は、5年に一回ではなく、2年か3年かに一回にできな
いか。5年の期間には、東日本大震災があることも、コロナ禍があることもある。情
勢を反映した調査とするには間隔を狭めるべきだ。」

事務局緒方職員「担当課として回答する。この調査は定点観測をするためのもの。全国的
や世界的な危機による変化をつぶさに捉えるための調査ではない。」

ウイ委員「調査を読んだ。マクロの変化を見ているということがわかる。1年や2年の間隔
で実施してもその変化はノイズになって変化を捉えにくくなってしまうと思う。そ
ういう意味で、間隔を狭める必要性はない。むしろ皆さんがご指摘の日々の問題は、
まさにこの外国人市民代表者会議で我々が声を上げることで施策に反映させること
こそ求められている。また、市役所職員の労力を考えても間隔を狭めることは得策
とは言えない。5年に一回で十分だろう。」

アディダヤ部会長「他のテーマについていかがか。」

ウイ委員「就園、就学、小学校、中学校、高校という進学の流れについて、外国人だけ
らこそ知っておくべき情報がひとつになったフローがあるとよいと思う。」

事務局緒方職員「日本国籍のこどもは、義務教育なので、就学案内が届いたらその公立
学校に行くか、私立の学校などに行くことは選ぶことはできるが、少なくとも就学
させる義務があるが、外国籍のこどもは異なる。日本の公立小学校に行かないとい
う選択もできるし、インターナショナルスクールに行くという選択もある。そのよう
な違いがあるということがわかるようなフローを作成できたらよいというふうに

理解した。」

アディダヤ部会長「時間が近づいてきたので、まとめに入りたい。次回以降持ち越すかどうか多数決を採りたい。まず、外国人市民意識実態調査の実施間隔を狭めることに賛成の方举手いただきたい（6名举手）。反対の方举手いただきたい（6名举手）。では次回に持ち越すことにする。次は、引越しのフローチャートについて賛成の方举手いただきたい（举手1名）。反対の方举手いただきたい（8名举手）。子育てガイドブックについて賛成の方举手いただきたい（6名举手）。反対の方举手いただきたい（4名举手）。」

事務局緒方職員「過半数に満たないものは、次回に持ち越すこととなる。前回決めたことも踏まえつつまとめると、ウェルカムセットの内容の標準化と二次元コードリスト化、転入3か月後にリマインドを送ることと、進路のフローチャートを作成することは確定で、外国人市民意識実態調査については次回持ち越しで異論ないか。（なし）」

アディダヤ部会長「時間になったので部会を終了とする。」

【安心生活部会】

単部会長「では時間になったので、部会を始める。今日は振り返りである。事務局から説明をお願いします。」

（事務局河田専門調査員より資料4に基づき説明）

単部会長「質問があるか。（なし）まず、フィールドワークの報告をしたい。中原区の中丸子公園で開催された防災訓練に参加した。委員の何名かは家族も一緒に参加した。見ると聞くでは大違いで、大変よい経験になった。起震車体験、消火器やAEDの使い方、災害時のトイレの使用方法など学ぶことが多かった。気づきの点として、やはり自分たち以外の外国人参加者がいなかった。現場の職員に話を聞いたところ、年に2回同様の訓練を開催するが、外国人参加者はいつもほぼいないということだった。防災訓練の見学ののち、中原市民館の市民活動センターにも見学に行ったが、その名のとおり市民による団体活動を支援するところであり、個人の困り事を相談できる場所という印象はなかった。一緒に参加した代表者のみなさんから、他に気づいたことを共有いただきたい。」

金委員「防災訓練に外国人参加者が少なかった一方で、やはり町内の繋がりの人たちの参加がほとんどだった。やはり町内会へのアクセスをよくすると防災訓練への参加も増えると思った。外国人が防災訓練により参加するようにするには、やはり町内会を外国人市民に対して説明する冊子を作って、防災意識を高めることが大事だと思う。」

楊委員「同感である。町内会の力を感じた。防災訓練を開催するにあたって、いくつかの町内会が共同で企画に関わるということ聞いた。町内会という日本のコミュニティの力は大きいと思う。」

ピョートル委員「町内会の機能は重要であるが、外国人市民にはまだ知られていないことがもっていない。この代表者会議で町内会の機能に触れるような提言ができればそれは有意義だろう。」

ポソ委員「実際に体験しないとわからないことは多い。体験してもらうには、興味を持ってもらうことだろう。そのとりかかりとして町内会のネットワークを活用することは有意義と思う。市が広報物を作成し、町内会に対して配布してもらうようなことは考えたい。」

プストフスキー委員「私は、この規模の防災訓練に参加したのは初めてだったので、気づくことが多かった。防災という言葉は外国人市民にはなじみがないだろうから、地震のときどうするかというようなやわらかい表現で身近に感じさせるものを作成できればいいだろう。実際防災訓練に行ってみて、私の見た目は明らかに外国人であるが、地元参加者も気さくに話しかけてくれて、快く受け入れてくれたと感じた。それは大事な気づきだった。」

張委員「防災訓練に参加して気づいたのは、助けあいの重要性だった。災害時に自分のことだけでなく、まわりの人を助けること、そして自分も助けってもらうことが大事だと気づいた。」

単委員「最後にひとつお知らせである。防災訓練当日に、FMかわさきが取材に来ており、我々も取材を受けた。放送予定は、9月22日朝9時半ということである。では振り返りに移る。事務局から説明をお願いする。」

(事務局河田専門調査員より資料4に基づき説明)

単部会長「では、審議に入る前にみなさんをお願いとして、今回は3つのテーマ全体について、自由に意見を出す時間としてもらいたい。特にこれまでの会議では内容についてインプットをしてきたので、今日はみなさんの意見やアイデアをアウトプットしてほしい。」

イトウ委員「質問がある。提言するにあたり、所管課を見据えて提案する必要があると思う。担当の分け方によって意見を出したほうがよいのではないか。」

単部会長「事務局に回答をお願いしたい。」

事務局三田村課長補佐「提言として確定する段階では、確かに主管課を指定することになるが、それは追って事務局が考えるので、今は自由に意見を出してもらいたい。」

単部会長「ありがとうございます。では挙手により意見を出していただきたい。」

鎌田委員「避難計画シートを多言語で作成するとよい。」

ボソ委員「外国人にとって避難所や避難ということはなじみがないから、啓発の意味で避難計画のシートを多言語にして配布するのは良い考えかもしれない。」

イトウ委員「そういう素材であれば、『備える、かわさき。』という冊子がすでに多言語で出ているので、もう一段階次の議論をしたほうがよいだろう。」

ヒリストバ委員「ウェルカムセットに防災啓発のチラシを入れてもらおうとよいと思う。」

金委員「ウェルカムセットについては、多文化社会部会が審議していることだと思ふ。」

事務局河田専門調査員「こちらの部会で話した内容を向こうの部会の内容とくっつけることもできる。」

金委員「類似した内容の提言がそれぞれの部会からできてしまってもよいのか。」

事務局河田専門調査員「今時点ではそれを心配する必要はない。最終的に別々の提言とするか、まとめてひとつの提言にするかを判断したらよいので、今は提言案につながる意見をどんどん出してもらったらよい。」

ピョートル委員「次の提言候補の絞り込みは各部会ごとにするのか。」

事務局河田専門調査員「そのとおりである。」

ピョートル委員「では、提言案として、多文化共生プラザのような施設が北部にないということでそれを作ってほしい、医療通訳者の人材育成を推進してほしい、かわさき防災アプリの言語数を増やしてほしいという提言がよいと思う。また、防災訓練に外国人が参加しやすくなるように案内を多言語化することも提言にしたらよいと思う。外国人市民のなかに、日本の防災について詳しい人材を育成して、新たに転入した外国人にもその人につながれば防災に関してはなんでも聞けるというような体制を構築できたらよいと思う。今日の審議では、提言にしたときに実現可能性はさておき、意見をなんでも出すことが重要と思う。」

李委員「かわさき防災アプリの多言語化をする。」

単部会長「アプリの多言語化も重要である。一方で、利用者を増やす取組も重要だと思う。」

イトウ委員「かわさき防災アプリとポータルサイトの内容が一致していないと思われることがあるので、そこを改善してほしいという提言にできるかと思う。」

ピョートル委員「風水害マニュアルに多言語ツールや受付シートが入っていないなら、入れてもらおうという提言がよい。」

ヒリストバ委員「かわさき防災アプリとポータルサイトでは、多言語表示に切り替えたとき、外国語表示の精度が低いと思う。改善してもらおうような提言ができたらよいかと思う。」

イトウ委員「共生コミュニティの形成というとき、実際に、何を提言にできるかは慎重になった方がよいと思う。例えば、実体験から言うと、町内会で具体的に何をやるか

という^{かいらんばん まわ}、回覧板を回す、赤い^{あか はね}羽根募金を募る、町内^{ちやうないかいひ}会費を集金^{しゅうきん}する。後日^{ごじつ}その領収書^{りやうしゅうしょ}をポスト^{ぽす と}に入れに行くという^いような業務^{ぎやうむないよう}内容である。そういうところに、外国人^{がいこくじん}市民^{しみん}に加入^{かにゆう}してもらいたいと思っている町内会^{ちやうないかい}がどれくらいあるか、また加入^{かにゆう}したところで英語^{えいご}がわからない既存^{きぞん}の町内会^{ちやうないかい}員からしたらどうやって交流^{かうりゆう}したらよいか困惑^{こんわく}するところもあるだろう。その点^{てん}を踏まえて審議^{しんぎ}した方がよいと思う^{おも}。」

ヒリストバ委員^{ひりすとばいいん}「そういう観^{かん}点^{てん}では、共生^{きやうせい}コミュニティ^{こみゆにてい}の形成^{けいせい}単体^{たんたい}では提言^{ていげん}にできないと思う^{おも}。外国人^{がいこくじん}市民^{しみん}に対して町内会^{ちやうないかい}が何か^{なに}ということをお知らせする^しようなものを作成^{さくせい}してウェルカムセット^{うえるかむせつと}に入れるという提言^{ていげん}は可能^{かのう}と思う^{おも}。」

張委員^{ちやういん}「共生^{きやうせい}コミュニティ^{こみゆにてい}の形成^{けいせい}について、すぐには具体性^{ぐたいせい}がなくとも、区^くと町内会^{ちやうないかい}が連携^{れんけい}して何か^{なに}をするということ^を、実証^{じつしやうてき}的に企画^{きかく}することはできる^{おも}と思う^{おも}。」

単部会^{しやんぶかい}長^{ちやう}「事務局^{じむきよく}に聞きたいが、そのような連携^{れんけい}の実例^{じつれい}はあるか。」

事務局^{じむきよく}三田村^{みたむら}課長^{かちやう}補佐^{ほさ}「町内会^{ちやうないかい}側^{がわ}から市^しに対して、例えば、町内会^{ちやうないかい}の集会所^{しゅうかいじよ}を建てたいとか修繕^{しゅうぜん}したいということであれば、その援助^{えんじよ}をすることが実例^{じつれい}として挙げられる^あだろう。また、防災訓練^{ぼうさいくんれん}も連携^{れんけい}している例^{れい}だろう。」

単部会^{しやんぶかい}長^{ちやう}「町内会^{ちやうないかい}に対して強制^{きやうせい}しないかたちで、提案^{ていあん}することは可能^{かのう}であるという前提^{ぜんてい}に立つと、宮前区^{みやまえく}の作成^{さくせい}した外国人^{がいこくじん}市民^{しみん}に向け町内会^{ちやうないかい}への加入^{かにゆう}をすすめる案内^{あんない}チラシがあるが、同様のもの^{どうよう}を作成^{さくせい}するという提言^{ていげん}はできる^{おも}と思う^{おも}。」

金委員^{きまいいん}「外国人^{がいこくじん}市民^{しみん}に対して、町内会^{ちやうないかい}の案内^{あんない}を汎用性^{はんようせい}の高い書き方^{たか}で作ったひな型^かを提案^{かた}するとよいと思う^{おも}。」

張委員^{ちやういん}「何か外国人^{がいこくじん}市民^{しみん}が持ち込み企画^もを市^しが場所^{きかく}や資金面^しで支援^{しきんめん}する仕組み^{しえん}づくりをしてもらうよう提案^{しき}するとよいと思う^{おも}。多文化^{ていあん}共生^{おも}プラザ^{たぶんかきやうせい}をもっと活用^{がらぎ}できるような仕組み^{かつよう}づくりをしてもらうという提案^{ていあん}がよいと思う^{おも}。」

事務局^{じむきよく}河田^{かわた}専門^{せんもん}調査員^{たうさぎん}「その観^{かん}点^{てん}であれば、過去^{かこ}に提言^{ていげん}してあり、市^しとしては取組^{とりくみ}中^{ちゆう}というステータス^{すてーたす}になっている。再提言^{さいていげん}をするということであれば、過去^{かこ}の提言^{ていげん}との差異^さ化^かをはかる必要^{ひつよう}がある。」

金委員^{きまいいん}「提言^{ていげん}にするにあたり、長期^{ちやうきでき}的な目標^{もくひよう}と短期^{たんきでき}的な目標^{もくひよう}と両方^{りやうほう}検討^{けんとう}した方がよい^{ほう}か。」

単部会^{しやんぶかい}長^{ちやう}「すぐ^{こう}に効果^{かう}が見える目標^{もくひよう}も欲しい^ほと思う^{おも}が、長期^{ちやうきでき}的な視点^{してん}も重要^{じゅうよう}だ^{おも}と思う^{おも}。」

イトウ委員^{いとくいん}「医療^{いりやう}については、行政^{ぎやうせい}ができることは限^{かぎ}られているので、これ以上^{いじやう}この場^ばで審議^{しんぎ}することは限界^{げんかい}があるのではない^かか。」

単部会^{しやんぶかい}長^{ちやう}「同感^{どうかん}である。医療^{いりやう}通訳^{つうやく}の人材^{じんざい}育成^{いくせい}や研修^{けんしゅう}実施^{じっし}は重要^{じゅうよう}な意見^{いけん}ではあるが、提言^{ていげん}にはつなげにくい^{おも}と思う^{おも}。」

ヒリストバ委員^{ひりすとばいいん}「市^しのホームページ^{ほーむぺーじ}の多言語^{たげんご}表示^{ひやうじ}の精度^{せいど}を上げる^あことやかわさき防災^{ぼうさい}アプリ^{あぷ}

りに他の言語も追加してもらおうとよいと思う。そして、町内会がどのようなものか外国人市民に伝わっていないことが課題であると思う。」

単部会長「そろそろ時間なので、実現可能性の低いものはここで議論から外すことも検討したい。」

ボソ委員「医療は行政ができることが限られているので、議題から落とすとしてもよいのではないか。」

張委員「皆さんに質問であるが、もし共生コミュニティの形成というときにどのような企画があったらよいと思うか。」

金委員「企画内容については、提言のその先に、考えることだと思う。私たちがすることは提言であるから、ここではその議論は少し異なるように思う。」

単部会長「一旦ここまでで出た内容を整理して、今後の議題から落とすもの、残すものを確認したい。かわさき防災アプリの多言語化、風水害マニュアルに多言語ツールを入れてもらうこと、町内会について外国人市民に伝えるひな型を作成すること、外国人が参加するイベントを企画することと、多文化共生プラザのような施設を市の北部に作ること。」

事務局河田専門調査員「多文化共生プラザのような施設が北部にないという点については、2015年の提言と2022年の再提言ですでに市が取組中になっていることはご留意いただきたい。」

ヒリストバ委員「質問であるが、ホームページの多言語表示について、昨年にリニューアルされたということだが、ポータルサイトも同様か。」

事務局河田専門調査員「市のホームページとポータルサイトは別々の運用で、ポータルサイトの多言語化については対応中と聞いている。」

単部会長「医療通訳の人材育成とメンタルヘルスについては実現可能性が低い。」

事務局河田専門調査員「今回、医療については実現可能性や受益人数も限られているから今後の議題から外してもよいという意見が多くみられたので、今日、医療を落とすかどうかだけ挙手によって決を採ることはいかがか。」

単部会長「よいと思う。では医療を今後のテーマから落とすことについて賛成する方は挙手いただきたい（12人賛成 1人反対）。では、今後は共生コミュニティの形成と防災・災害について審議を深めていくこととしたい。」

ボカレル委員「反対に挙手をした。日本語がわからない外国人市民にとって医療やメンタルヘルスの問題は重要であると思っているからだ。しかし、皆さんと同じで、提言にするには向かないテーマだということはわかっているので異論はない。」

単部会長「ありがとうございます。では、時間になったので部会は終わりとする。」

【全体会】

セネ委員長「全体会を再開する。まずは、安心生活部会から報告をお願いする。」

単部会長「まずフィールドワークの報告をする。先週、中原区の防災訓練に両方の部会から何名かで参加した。AED、火災の煙、消火器、起震車の体験をし、防災セットについて学んだ。現場の職員の方に、いつも防災訓練を開催しても、外国人市民の参加はほぼないということを知った。その後、中原区の市民活動センターに行ったら、そこは市民団体の支援をするところで、市民の個別課題を相談するところではないとわかった。以上がフィールドワークの報告である。今日の審議の報告に移る。かわさき防災アプリは多言語表示が十分でないとかポータルサイトの多言語表示はまだ限られているとか、市からの情報の多言語表示の精度に問題があるという意見があった。」

セネ委員長「ありがとうございます。何か質問があるか。(なし) 多文化社会部会から報告をお願いする。」

アディタヤ部会長「ウェルカムセットの内容を標準化すること、ウェルカムセットの中身を二次元コードリスト化すること、転入から3か月でウェルカムセットのリマインドを送付することについては、今後よく審議することが決定した。外国人市民意識実態調査の実施間隔や内容を見直すということ、そして子育てガイドブックを新たにまとめることについては、次回に持ち越すことになった。」

セネ委員長「質問があるか。(なし) では、実行委員会の報告に移る。まず、臨時会実行委員会の報告をお願いする。」

スリニヴァサン副委員長「オープン会議について、冒頭の代表者会議の説明を簡潔にした方がよい、交流会では食べ物はどうするか、そして広報のためにチラシを早く作りたいという話をした。」

セネ委員長「ニューズレター編集委員会の報告をお願いする。」

ブー委員「レイアウトをよりみやすく工夫することについて話した。」

セネ委員長「では、交流イベント実行委員会の報告をお願いする。」

ウイ委員「委員長になった。かわさき市民祭り、インターナショナルフェスティバルの2つに参加するにあたり、有意義な交流にするため皆さんからの支援をお願いする。」

セネ委員長「今日の議事は以上である。」

【事務連絡】

セネ委員長「事務局から事務連絡があればお願いする。」

事務局緒方職員「4月18日に正副委員長と部会長2名が、市長に年次報告書を提出したときに取材を受けた。5社の新聞社が記事にしてくれたので配布する。また、かわさ

きFMというラジオは災害時に多言語で発信するためのものである。外国人市民の方に広く周知いただきたい。先週の中原区の防災訓練に参加したとき取材を受けたと思う。9月22日に放送されるのでぜひ聴いていただきたい。」

セネ委員長「以上で今日の日程は終了とする。次回は6月15日、日曜日に、ここ国際交流センターで開催する。これで2025年第1回第2日の会議を終わりとする。」